

観測支援体制の充実

評価結果概要

南極という極地の厳しい環境における観測隊の安全の確保は一義的に重要であり、結果として安全が確保されていることは高く評価できる。今後は「しらせ」後継船就航による人材の多様化に伴い、安全認識のレベルに応じた安全教育や同行者の位置づけの明確化について更なる強化が望まれる。

実績・成果

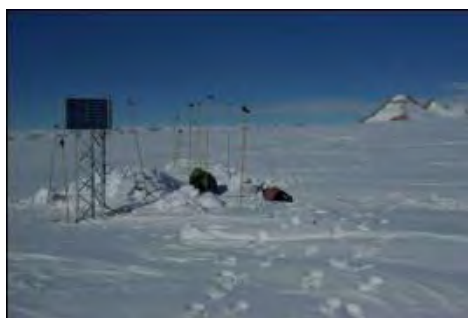
南極観測船「しらせ」



マルチナロービムをはじめ最新の観測機器を搭載し、南大洋の海洋観測の充実を図った



東京海洋大学「海鷹丸」の共同観測航海



ベルギーの新基地近傍に置いた無人磁力計観測点

航空機の利用



11カ国の国際共同事業「ドロンニングモードランド航空網計画 (DROMLAN)」として、双発中型固定翼機による観測と人員輸送が実現



国際共同観測であるAGAP (国際ガンブリツェフ氷床下山地探査計画)に参加し、米国の協力の下ドームふじ基地に無人地震観測点を設置